

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人 渡辺 喜平 様 あて名 〒 101-0041 東京都千代田区神田須田町一丁目26番 芝信神田ビル3階		PCT 国際調査機関の見解書 （法施行規則第40条の2） 【PCT規則43の2.1】	
出願人又は代理人 の書類記号 IDS-438-PCT		発送日 （日.月.年） 28.9.2004	
国際出願番号 PCT/J P 2004/010026	国際出願日 （日.月.年） 14.07.2004	優先日 （日.月.年） 16.07.2003	
国際特許分類（IPC）		Int.Cl'B29B 7/80	
出願人（氏名又は名称） 出光石油化学株式会社			

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
☐ 第II欄 優先権
☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
☐ 第VI欄 ある種の引用文献
☐ 第VII欄 国際出願の不備
☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 08.09.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁（ISA/J P） 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官（権限のある職員） 堀 洋樹 電話番号 03-3581-1101 内線 3430

様式PCT/ISA/237（表紙）（2004年1月）

BEST AVAILABLE COPY

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

BEST AVAILABLE COPY

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	5, 6, 8-11	有 無
	請求の範囲	1-4, 7, 12-19	
進歩性 (IS)	請求の範囲	9-11	有 無
	請求の範囲	1-8, 12-19	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-19	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

- 文献1: J P 2001-88194 A (出光石油化学株式会社)
2001.04.03, 段落【0014】、【0023】、【0034】、
【0039】、図1
- 文献2: J P 8-47960 A (出光興産株式会社)
1996.02.20, 段落【0020】、【0025】、図1及び2
- 文献3: J P 3-47723 A (出光興産株式会社)
1991.02.28, 第5頁左上欄12行-右上欄7行,
第7頁左上欄, 第9頁右下欄, 第4図, 第6図
- 文献4: U S 6528554 B1 (THE UNIVERSITY OF AKRON)
2003.05.04, 請求の範囲

請求の範囲1、3、15、17に記載の発明は、文献1、2又は3に記載の発明により新規性、進歩性を有さない。文献1-3には、弾性体や他の部材とのギャップを設けることによる振動伝達抑制手段が記載されている。

請求の範囲2に記載の発明は、文献2又は3に記載の発明により新規性、進歩性を有さない。文献2-3には、振動子又は振動伝達部材として、チタン合金を用いることが記載されている。

請求の範囲4に記載の発明は、文献1又は2に記載の発明により新規性、進歩性を有さない。

また、請求の範囲5-6に記載の発明は、文献1又は2に記載の発明により進歩性を有さない。文献文献1-2には、振動伝達抑制手段として弾性体を用いることが記載されている。

請求の範囲7に記載の発明は、文献1、2又は3に記載の発明により新規性、進歩性を有さない。

また、請求の範囲8に記載の発明は、文献1、2又は3に記載の発明により進歩性を有さない。文献文献1-3には、振動体又は振動伝達部材と他の部材との間にギャップを設けることが記載されている。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲 9-11 に記載の発明は、国際調査報告で引用された文献に対し、進歩性を有する。国際調査報告で引用されたいずれの文献にも、振動を付与する振動印加面に、樹脂材料の付着性を向上させるための表面加工又は表面処理を施すことが記載されておらず、当業者にとってそのことは自明なものでもない。

請求の範囲 12-14 に記載の発明は、文献 2 又は 3 に記載の発明により新規性、進歩性を有さない。文献 2-3 には、複数のホーンを異なる方向から流路に配置することが記載されている。

請求の範囲 16 に記載の発明は、文献 1 又は 3 に記載の発明により新規性、進歩性を有さない。文献 1、3 には、複数の樹脂等の混合物を材料として用いることが記載されている。

請求の範囲 18 に記載の発明は、文献 1、2 又は 3 に記載の発明により新規性、進歩性を有さない。文献 1-3 には、請求の範囲 1 に記載の超音波振動付与装置を用いて樹脂組成物を生成することが記載されている。

また、上記請求の範囲 18 と同様に、請求の範囲 19 に記載の発明は、文献 1 又は 3 に記載の発明により新規性、進歩性を有さない。

BEST AVAILABLE COPY